

## みずほ情報総研株式会社

### メガバンクが進める次世代ICT基盤構築

### SIと運用のトータルな支援で取り組みを加速

#### 導入サービス：グローバルマネージドネットワークソリューション Arcstar Universal One



みずほ情報総研株式会社  
専務取締役  
向井 康真氏

「各国のキャリアを束ねたグローバルシームレスな通信環境を実現するには、NTT Comの経験や対応力が必須でした」

#### 課題

- ・海外各国のネットワークにおいて、暗号化などの新たな要請に対応する必要があった
- ・環境変化に対応する上で、グローバルプロジェクトの経験豊富なパートナーが不可欠に

#### 対策

- ・マネージドサービスを利用し、運用負荷軽減と変化への対応速度向上を両立
- ・通信状況を一元的に把握できる機能を導入し、ユーザーサポートを強化

#### 効果

- ・各国の規制に対応したグローバルネットワークを構築し、国内から一元管理
- ・グローバルの勘定系システムやパブリッククラウドとの接続に向け始動

#### 課題

ダイナミックな環境変化に対応するには  
グローバルの経験が豊富なパートナーの支援が不可欠

みずほフィナンシャルグループの一員として、システムのコンサルティングやインテグレーション、アウトソーシングなどのICTサービス事業を展開するのが、みずほ情報総研だ。

“One MIZUHO”のスローガンのもと、総合金融コンサルティンググループを目指す同グループにとって、全世界の顧客に高品質なサービスを提供するためのグローバルICT環境は必須。その構築の一端を担うみずほ情報総研の役割は、年々重要度を増している。

「一方、そうした環境の実現に当たっては、ビジネスを展開する各国側の要請にも応えながら進める必要があります。近年は特に情報セキュリティに関する要請が増えており、それらに柔軟・的確に対応するための体制強化が課題になっていました」とみずほ情報総研の向井 康真氏は振り返る。

具体的に、個人情報の取り扱いや改ざん防止などのルールが更新・追加され、それらに沿うことが求められていた。またサービスレベルを維持するためのトランザクション処理の速度、システムの可用性などについてもそれぞれ要件が存在。システムやネットワークの構築は、それらを満たしながら進める必要があったという。

「それらの要請は随時変更されるため、ICT環境への影響を即時に分析して手を打つといった運用体制を備えておく必要があります。世界中で発生するこれらの業務に、自前のリソースで対応しようとするのは大変難しく、グローバルのシステム構築や運用に強みを持つパートナーと組むことは不可欠でした」と向井氏は言う。

#### 企業情報

社名 みずほ情報総研株式会社

事業概要 「総合金融コンサルティンググループ」を掲げる、みずほフィナンシャルグループの一員として、システムのコンサルティングやインテグレーション、アウトソーシングなどのサービスを展開する

URL [www.mizuho-ir.co.jp](http://www.mizuho-ir.co.jp)

## 対策

### グローバルのカバレッジや対応力など マネージドサービスのノウハウを評価

この状況のもと、グローバルなICT基盤の構築・運用におけるパートナーとして、同グループが選んだのがNTTコミュニケーションズ(以下、NTT Com)だ。

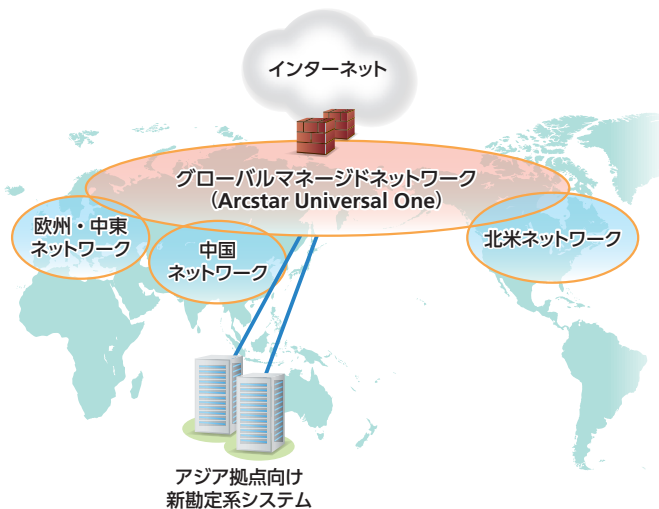
同グループは、2012年以來、グローバルネットワークの構築・運用に向けてNTT Comのマネージドサービスを利用してきた。そこで、今回のセキュリティ要請の高まりに向けても、このサービスをさらに強化することで対応しようと考えたのである。

「国や地域のカバレッジ、通信の安全性・安定性、システムの拡張性や管理性など、総合力で判断するとNTT Com以外は考えられませんでした」と向井氏。特にカバレッジについては、現地と国内の強固な連携体制が大きな決め手になったという。

例えば、特に新興国では、土木工事の車両が回線を切断してしまうといったことも珍しくない。そんなときは、素早く原因を特定し、現場に急行して現地キャリアと折衝、物理的な作業によって復旧するといった対応力が求められるが、NTT Comがそうしたプロセスの豊富な経験を持っていることは大きかった。

「変化する各国の要請に応えるという新たな要件はありつつも、グローバル回線の品質や安全性を国内で一元管理し、最適な状態を維持・可視化できることは引き続き必須です。それには、やはりNTT Comのマネージドサービスがベストだと判断したのです」と向井氏は強調する。

図 グローバルマネージドネットワークとアジア拠点向け新勘定系システムのイメージ



新たなアジア拠点向け新勘定系システムはアジアから順次グローバルに拡張される予定。その土台もArcstar Universal Oneをベースとしたマネージドサービスが支える

## 効果

### トラフィックの状況を可視化し 海外における円滑な業務をサポート

マネージドサービス導入後、同グループのグローバルネットワークは一層強化された。かねて利用してきた回線や各種機器の提供、24時間365日体制のサポートといったサービスに加え、全通信で暗号化を実装。すでに暗号化への要請があった国はもとより、今後暗号化が要求されるであろう地域においても、先んじてセキュリティ強化を進めた格好となっている。

また新たに、通信状況をIPアドレスレベルで可視化し、アプリケーションごとのトラフィック分析が行える性能管理機能を実装。これを活用することで、通信遅延などの際、各拠点から寄せられる問い合わせにも迅速・的確に回答できるようにした。みずほ情報総研は、これをマネージドサービスと組み合わせることで、各現場へのサービスレベル向上に役立っているという。

加えて、グループのグローバル戦略のもとでは、異なる領域のシステム開発プロジェクトも複数進められている。その1つが、国際勘定系システムの刷新を含めた、アジア拠点向け新勘定系システムプロジェクトだ。同グループは、ここでもNTT Comをパートナーに選定し、ネットワーク構築を進めることにした。

「これは、我々金融業の最重要システムともいえる勘定系を再構築し、グローバルに展開するプロジェクトです。その第一歩として、NTT Comのシンガポールとマレーシアのデータセンターを採用し、アジア/オセアニア拠点向けの環境を構築。先に紹介したようなNTT Comの強みによって、納期、性能などの要件を満たした“ネットワークリリース”が実現できました」と向井氏は満足感を示す。データセンター間/内部のネットワークもNTT Comがマネージドサービスとして提供し、国内と同じ品質で安定運用を実現しているという。

このように、グローバルネットワークの最適化と勘定系システムの再構築という、2つの大型プロジェクトをNTT Comとともに進めている同グループ。その過程では、外部リソースを積極的に活用する方向へと、IT活用方針自体も大きく舵を切っている。

「セキュリティや性能の観点から、金融業界のシステムは長年、自前主義が通例でした。しかし、先進技術を取り入れた新サービス創出が重要ミッションになっている現在、自前ですべてを抱えることは、ビジネスの可能性を狭めてしまうことにつながります。NTT Comとは、長年にわたりパートナーシップを育んできた経緯があります。これからも、迅速かつ柔軟なサービスで、当グループのお客さまサービス向上に向けた支援を期待しています」(向井氏)

今後はパブリッククラウドの活用や、それらと既存システムの接続なども視野に入れながら、一層多様な取り組みを進めていく。その際も、セキュリティやガバナンスの確保は必須条件となるだろう。NTT Comが貢献できる点は多いはずだ。


お問い合わせ先

NTTコミュニケーションズ株式会社

法人のお客さまお問い合わせ窓口 [法人コンタクトセンター]

 **0120-106107** 受付時間 9:30~17:00  
※携帯電話、PHSからご利用いただけます。土・日・祝日・年末年始は休業とさせていただきます。

ホームページ [www.ntt.com/business](http://www.ntt.com/business)

- 記載内容は2018年8月現在のものです。
- 表記のサービス内容は予告なく変更することがありますので、お申し込み時にご確認ください。
- フリーダイヤルのサービス名称とロゴマーク  はNTTコミュニケーションズの登録商標です。
- 記載されている会社名や製品名は、各社の商標または登録商標です。